

SECURITY SOLUTION

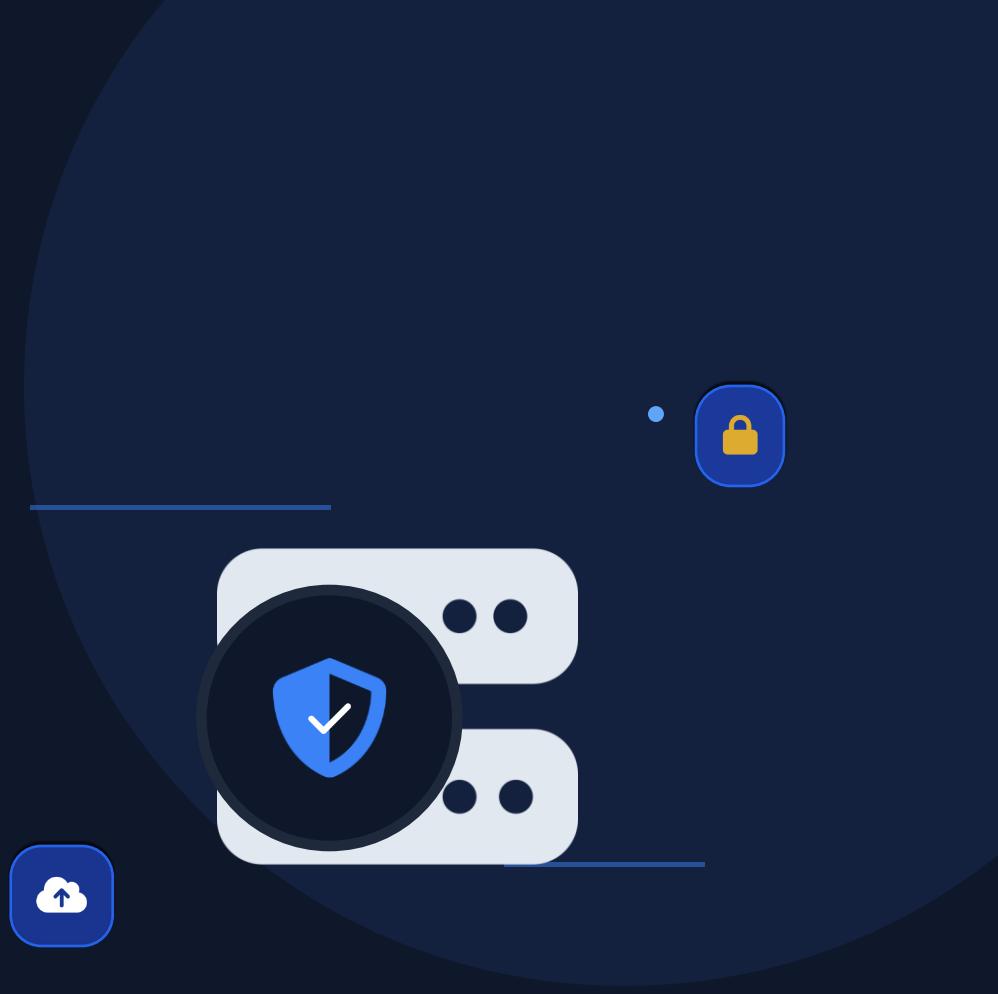


サーバーバックアップシステム

ランサムウェアから企業データを守る

ITソリューションプロバイダー

 株式会社さくらコミュニケーション





商号	株式会社 さくらコミュニケーション Sakura Communication Co., Ltd.	
資本金	3,000万円	
取引銀行	西武信用金庫 / みずほ銀行 / 三井住友銀行 / りそな銀行	
役員	取締役社長 鈴木 祐一 取締役 桑村 時生	代表取締役 松尾 浩 執行役員 荒木 泰孝
主要業務	<ul style="list-style-type: none">● ソフトウェアの開発・維持・管理● ITインフラ基盤設計・構築・運用● 海外事業者向けビジネス構築サービス● 海外オフショア開発サービス	<ul style="list-style-type: none">● WEBサイト制作・運営・管理● エンジニアの派遣● 国内事業者向けICTコンサルティング
認許可	<p>Pマークプライバシーマーク (10825146) 派遣労働者派遣事業 (派13-309616)</p> <p>テレワーク東京ルール実践企業宣言 地方創生テレワーク推進運動Action宣言</p>	
	85名	
加入団体	NPO法人 JASIPA (Japan System Integration Partners Association)	
主要取引先	国土交通省 (MLIT) / 情報通信研究機構 (NICT) / 一般財団法人 調布市市民サービス公社 / 日本電気 株式会社 / NECソリューションイノベータ 株式会社 / 株式会社 アグレックス / 株式会社 ウオールナット / 株式会社 エヌアイディ / 株式会社 東邦システムサイエンス / 日本自動化開発 株式会社 / 日本デエイブレイク 株式会社	

バックアップシステムの重要性

データ喪失のリスクは常に存在します。予期せぬトラブルから企業資産を守るために。

システム障害



OSのクラッシュ、パッチ適用の失敗、ソフトウェアの不具合などにより、突然データにアクセスできなくなるリスク。

ウィルス感染



ランサムウェアによるデータの暗号化や、標的型攻撃によるデータの破壊・改ざんの脅威。

SOLUTION

⌚ バックアップにより、復旧可能

誤操作・削除



重要なファイルの誤削除、上書き保存、設定ミスなど、人為的なミスによるデータ消失。

ハードウェア故障



HDD/SSDの破損、サーバー機器の老朽化、自然災害（雷・水害）による物理的な故障。



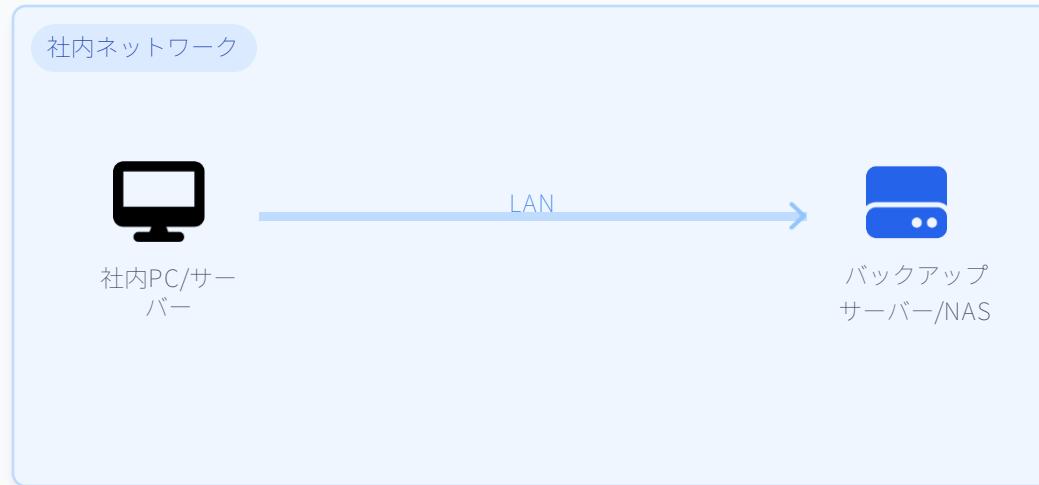
これらのリスクは予測が難しく、発生時のビジネスインパクトは甚大です。
適切なバックアップ運用は、ビジネス継続計画（BCP）の中核となります。

バックアップシステムの各種方法

企業のニーズに合わせて選択可能な2つの主要なアプローチ



オンプレミス
On-Premises Backup



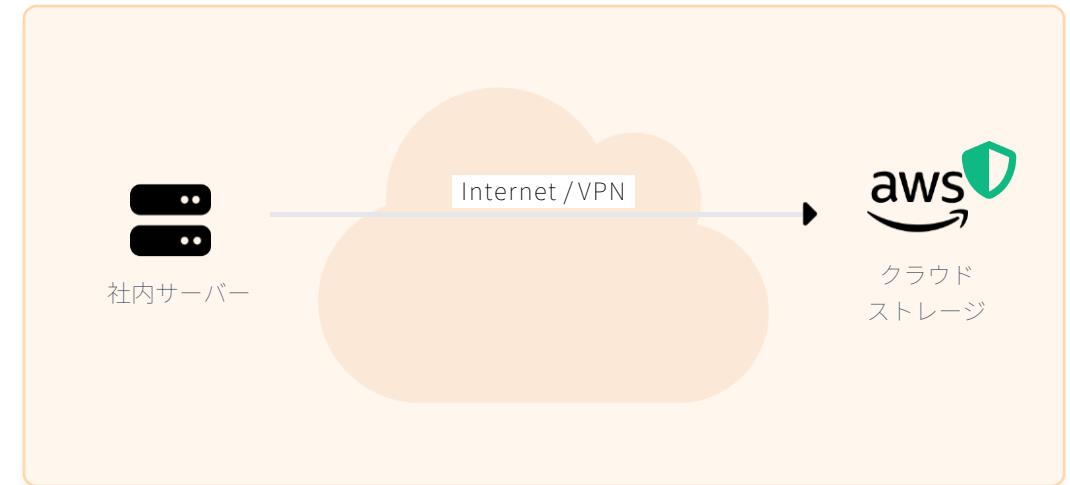
社内に物理的なストレージやハードウェアを用意し、管理する従来型の方式です。

社内ネットワークを経由して、高速にバックアップデータを保管

インターネット切断時もバックアップ・復旧が可能



クラウド
Cloud Backup (AWS)



インターネットを経由して、AWS（Amazon Web Services）などの高信頼クラウドにデータを保管します。

物理的なハードウェア管理が不要

地理的に離れた場所へ保管するため、災害対策（DR）として有効



※バックアップ頻度は、毎日・毎週・毎月など、お客様の要件に合わせて自由に設定できます。

各バックアップ方式のメリット比較

自社の運用ポリシーやセキュリティ要件に合わせて最適な方式を選定するための比較



オンプレミス On-Premises



物理的に自社管理ができる

サーバーやストレージを物理的に管理できるため、アクセス権限やセキュリティ設定を自社の厳格なポリシーに合わせて自由に制御可能です。



復旧作業が早い

社内ネットワーク（LAN）内のデータ転送となるため、インターネット回線の帯域に依存せず、大容量データでも即座に高速復旧が可能です。



クラウド Cloud (AWS)



災害に強い（BCP対策）

データセンターが地理的に分散しているため、本社が被災した場合でもバックアップデータは安全に保全され、事業継続性を確保できます。



高度なセキュリティ

クラウドベンダーによる多層的なセキュリティ対策、暗号化、アクセス制御により、データを強固に保護します。常に最新のセキュリティが適用されます。

VS

オンプレミス・バックアップの特徴

自社環境でデータを管理・保護する従来型アプローチの強み

01



社内データ保管

自社内でデータを安全に保管し、外部からのアクセスを完全に遮断します。物理的なセキュリティ対策と組み合わせることで、最高レベルの機密性を確保することが可能です。

02



迅速なデータ復旧

オンプレミス環境でのバックアップにより、ネットワーク遅延なしで迅速にデータを復旧できます。大容量データであっても、業務停止時間（ダウントIME）を最小限に抑えることが可能です。

03



世代管理

毎晩のバックアップなどで複数世代にわたるデータ管理を行います。「昨日のデータに戻したい」「1週間前の状態が必要」といった、過去のバージョンへの柔軟なロールバックが可能です。

オンプレミス構成図

堅牢なセキュリティと高速なバックアップを実現するシステムアーキテクチャ

業務環境（プロダクション）



クライアントPC



アプリサーバー



DBサーバー

社内LAN (1Gbp ↓ データ転送)



バックアップ管理



バックアップ
管理サーバー

✓ 重複排除

✓ スケジュール管理

✓ 整合性チェック

リストア

バックアップ保存先



プライマリ
ストレージ (NAS)



アーカイブ
(テープ/LTO)



データフロー設定

日次：変更部分のみの「増分/差分」バックアップで時間を短縮。週次/月次：システム全体の「フルバックアップ」を取得し、完全な復旧ポイントを確保。



セキュリティ対策

ネットワーク分離：バックアップ専用VLANを構築し、通常業務LANからのマルウェア拡散を防止。
WORM機能：「書き込み一度、読み取り何度でも」の設定で、データの改ざん・削除を物理的に防止。



オフサイト保管（オプション）

テープメディア等を定期的に遠隔地へ搬送することで、火災や地震などの物理的災害リスクに対応します（3-2-1ルールの実践）。

クラウド・バックアップの特徴

AWS基盤を活用した堅牢かつ柔軟なデータ保護ソリューション

01



高度なセキュリティ

クラウド環境での多層的なセキュリティ対策により、データを強固に保護します。最新の暗号化技術や厳格な認証システムを駆使し、不正アクセスや情報漏洩を未然に防ぎます。

02



AWSストレージの信頼性

世界的に信頼されるAWSのインフラを使用し、データの安全性と可用性を確保します。極めて高い耐久性を持つ冗長設計により、データロスのリスクを実質的にゼロに近づけます。

03

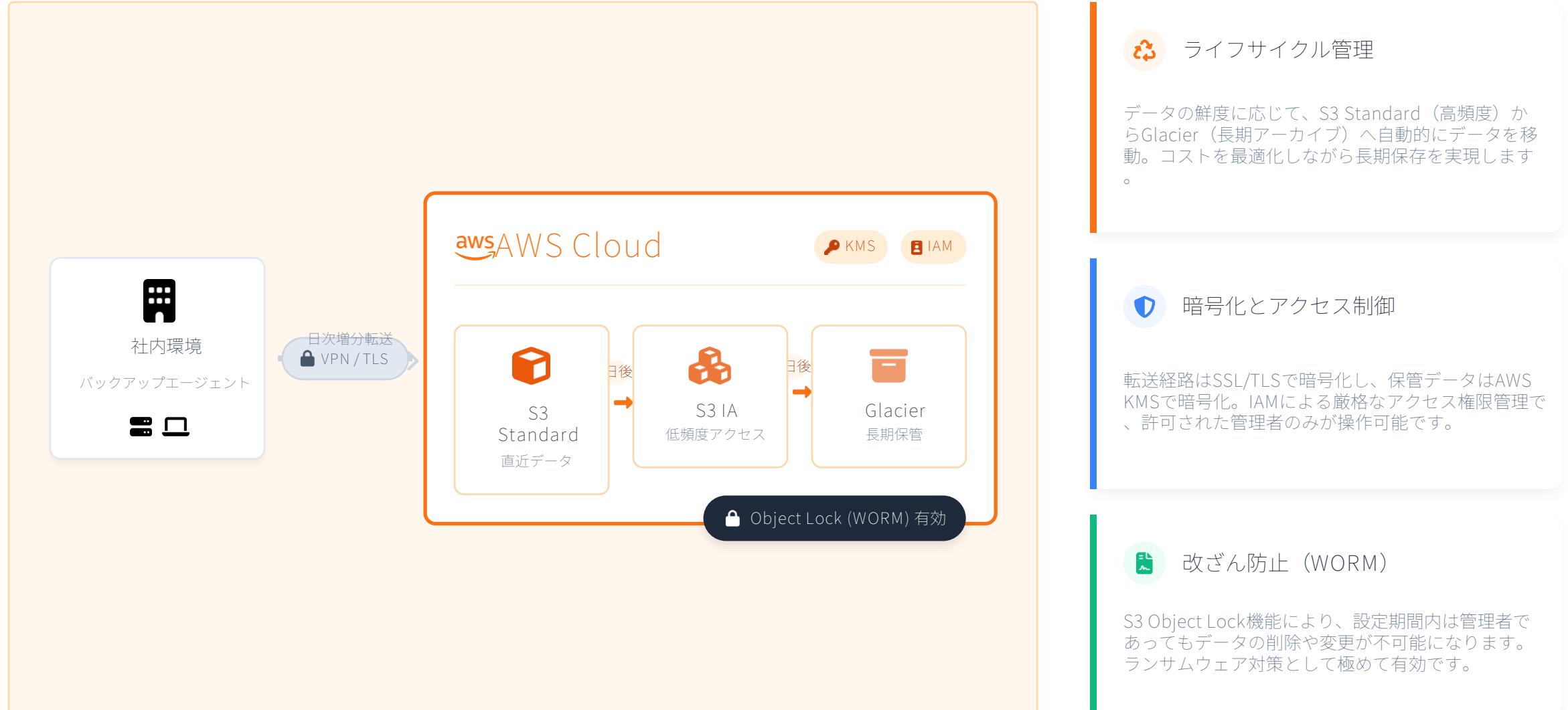


冗長性・スケーラビリティ

クラウドならではの柔軟性を活かし、データ量の増加にも即座に対応可能です。必要な分だけリソースを利用するため、コスト効率の高い最適なストレージ運用を実現します。

クラウド構成図

AWS基盤を活用した堅牢なバックアップアーキテクチャ



ハイブリッド・バックアップの特徴

オンプレミスの即時性とクラウドの冗長性を組み合わせた最適解

01



オンプレミスの即時性

ローカルでのバックアップ運用により、迅速なデータアクセスと復旧を実現します。日常的な運用において、業務への影響を最小限に抑え、スムーズなリストアが可能です。

02



クラウドの冗長性

クラウドへの遠隔バックアップで、災害時のデータ保護を強化します。地理的に分散したデータ保管を実現し、BCP（事業継続計画）対策としても極めて有効です。

03

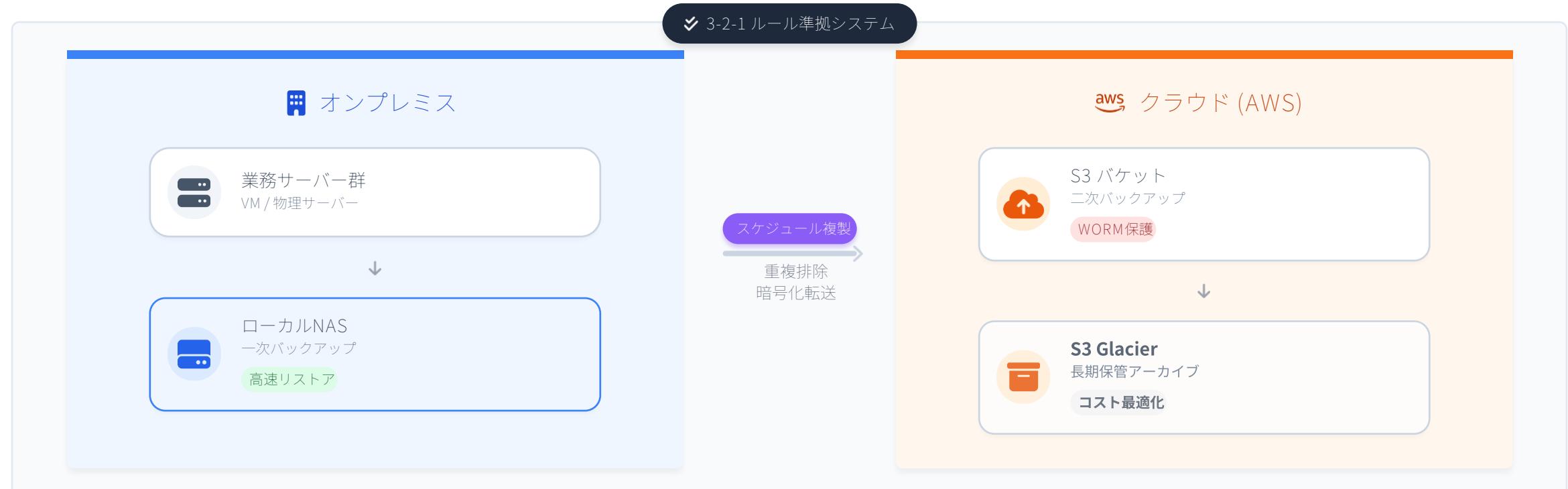


柔軟な運用

オンプレミスとクラウドを組み合わせることで、データの重要度に応じた最適な保護戦略を立てられます。コストとパフォーマンスのバランスを考慮し、効率的な運用設計が可能です。

ハイブリッド構成図

オンプレミスの即時性とクラウドの冗長性を統合した最適解



階層化バックアップ

直近データはローカルNASで即時復旧。古いデータはクラウドへ自動転送し、運用コストを最適化します。



BCP・災害対策

データを物理的に離れたクラウドへ複製。オフィスが被災してもデータは安全に守られます。



ランサムウェア対策

クラウド側で「不可変 (Immutable)」設定を適用。管理者権限でも削除できない最強の保護を実現。

データ復旧作業の流れ

緊急時に確実な業務再開を実現するための3ステップ



事前計画に基づき、冷静かつ迅速に対応することが被害最小化の鍵となります。

目標 RTO短縮

品質 完全復旧

復旧フロー図解

障害発生から業務再開までの標準対応プロセス



○ インシデント

○ 判断・分析

○ 実行プロセス

バックアップ計画の策定

業務継続性を確保するための4つの循環プロセス



バックアップ設定例

対象システム	優先度	設定方針 (頻度 / 期間 / 場所)
基幹システム 会計・人事・販売管理	高	頻度: 毎日(夜間フル + 日中増分) 期間: 7年(法令対応) 場所: ハイブリッド(WORM)
ファイルサーバー 共有ドキュメント	中	頻度: 毎日(夜間増分) 期間: 1年 場所: オンプレミス + クラウド
一般PC端末 口一カルデータ	低	頻度: 週1回 期間: 1ヶ月 場所: クラウド(個人領域)

● システム更新や組織変更のタイミングで、少なくとも年1回は計画の見直し(Step 4)を実施することを推奨します。

Next Step

ランサムウェアから 企業データを守る

最適なバックアップを。

現状のバックアップ体制に不安はありませんか？

ヒアリングから要件定義、PoC（概念実証）まで、

貴社の課題に合わせたソリューションをご提案します。

- 無料相談・現状診断
- お見積り・構成案作成



Simple. Secure

株式会社さくらコミュニケーション

Sakura Communication Co., Ltd.



Official Website

<https://www.sakura-communication.co.jp>